Yoshitake 吉武

Theme 田園散策

About 吉武地区とは武丸と吉留を併せた校区。その昔、この地域は吉武村となっていた今も農業が盛んな地域。

令和2年に猛威を振るった新型コロナウイルス。その影響により、改めて見直されるようになったのが日常的な運動。今回は赤馬館を出発点に吉武地区のウォーキングをご紹介。赤間宿の街並みと自然豊かで寺社仏閣などが残る吉武地区の往復約10km、約3時間程度のルートを散策。

スポーツからイベント、犬の散歩など幅広い利用が可能な総合施設。

今回のウォーキングでの折り返し地点である「グローバルアリーナ」。本施設では様々なスポーツに対応したグラウンドや体育館、コートを完備。芝生広場、カフェやレストランも併設されており、一般の方にも入場無料で広く開放している。宿泊施設も完備。ファミリー、企業研修、学校行事など様々な利用シーンに対応している。

散策していると季節の草花に出くわす。今回は6月だったので紫陽花が至るところに咲いていた。

最初の立ち寄り場所。今回、社長自ら説明いただき、試飲。立派な茅葺き屋根が印象的な酒蔵。

近くを通ると必ず目に留まる「カメノオ」と書かれた煙突。

田んぼの畦道を散策。普段アスファルトに慣れている分、土を踏みしめながら歩けるのが楽しい

遠くにJR鹿児島本線を往来する電車たち。ウォーキングしていると普段は気にもとめない景色に新たな発見を感じる。

普段は鍵がかかって中に入ることの出来ない、八所宮のすぐ側にある「長宝寺観音堂」。写真は山から転げ落ちてきたとも言われる木造の仏像。

杜の中にある八所宮。長い階段を登った先に社が見えてくる。

吉武の自然と歴史を散策探訪。

唐津街道の宿場町として栄えた赤間宿を散策仲間達と共に出発。通りには酒蔵や古民家、雑貨屋、飲食店などがあり、歩きながらじっくりと街並みを楽しめる。宿通りを抜けて東に向かうと遠くに新立山を望め、その手前には豊かな田園風景が広がる。ここからが自然豊かな吉武地区だ。

広く宗像を取り囲むようにそびえ立つ山並に向かって歩く。すぐ横には玄界灘まで続く二級河川「釣川」が並走。この道はその昔、街道として木屋瀬宿（八幡西区木屋瀬）に向かう道だった。今は国道3号線にその役割を取って代わられたが、今も鞍手の方に向かう人たちの道となっている。散策では車が多いので脇道へ。車も少なく自然が広がる景色で散策に適している。ちょうど田植えシーズンで、代を掻いた田やすでに苗が植えられた田があり、紫陽花も彩り豊かに咲いている。20分ほど歩くとレンガ造りのクラシックな煙突が見えてくる。煙突には「カメノオ」と書かれている。こちらは創業300余年の酒蔵「伊豆本店」。酒蔵が今なお2ヶ所残る宗像は、古くから米づくりが盛んだったことを感じられる。今回、伊豆本店のご厚意で社長自ら試飲とお酒の紹介をしてもらった。普段も販売はしているので、HP等で確認して立ち寄って欲しい。

少し疲れた身体に甘酒の試飲が身体に染み入り、また次の目的地まで頑張る気力が湧き上がってくる。10分ほど行ったところに、杜が現れ、その手前には鳥居が立つ。ここが「八所宮」。八所宮に関しては過去の「往来vol.19」参照。八所宮と長宝寺を抜けたあとは南側に見える県道29号と並走するように畦道を進む。

張り詰めているものが自然と緩む時間

ずっと続く田園と久々の土を踏みしめる感触や道端の何気ない草花、そして仲間同士の会話が日常の中で制限を余儀なくされ、張り詰めていた気持ちを緩めてくれる。少し汗が滲んだ頃、折り返し地点のグローバルアリーナに到着。広い敷地に休憩できる場所があり、水分補給やお昼を取ることが出来る。

帰りは少し別のルートを回り赤間宿へ。普段、車移動が多い分、いつもの何気ない風景が散策だと随分と目線が変わる。気分転換や健康づくり、歴史探訪にみなさんも吉武散策にぜひトライしてほしい。